

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標	
「ともに 未来を ひらく とみひのせいと」	
◇社会生活に必要な基礎・基本の定着を図り、自ら学び続ける姿勢を育みます。(知) ◇様々な学び合いを通して、豊かな人間関係をつくる力と、未来を拓く精神を育てます。(徳・開) ◇学校生活や地域の様々な体験に積極的に取り組む姿勢を培い、個性を伸ばしながら、心身を鍛えます。(体・公)	
教育課程全体で育成を目指す資質・能力	
《自分づくりに関する力》	具体化した資質・能力
◇主体的に未来を拓く力 ◇よりよい社会を創る態度	
中期取組目標	
◇夢や目標の実現に向けて、主体的に判断し、実行できる力を育てます。 ◇社会の変化に対応し、学び続ける意欲と態度を育てます。 ◇自他の違いやよさを認め、尊重し、互いに高め合うことができる態度を育てます。 ◇地域活動に積極的に参加し、地域とつながり、社会に貢献しようとする態度を育てます。	

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①授業評価を生かして授業改善に努めるとともに、教材の探求や組み立ての工夫をし、分ける授業を行います。 ②少人数授業や、チームティーチングによる授業を生かして、「個に応じた指導」を充実させるとともに、指導と評価の一体化を図り、生徒の学習改善を充実させます。 ③コミュニケーションを大切にし、学びやすい環境を整え、主体的に学習を深められるようにします。
担当	学習指導部

学力向上に関わる本校の状況	
(1)学力に関わる生徒の実態 過去数年のデータと見比べて、学習意識・生活意識が前向きな生徒が増加している。技術科目では市の平均を大きく越えており、5教科全てにおいても市の平均程度の意識を備えている。一方、学力に関しては市の平均程度か、やや下回る数値である。つまり、学習への意欲・意識は高まってきているが、学力が十分に身につけていない状態と言える。手立てとして、「①毎回の授業のねらいを明確にし、見直しを持って学習に臨めるようにすること」、「②授業の振り返りの時間を必ず設けて、ねらいの再確認、自己の理解度を確認すること」、「③理解が足りなかった部分については、授業内で繰り返し扱ったり、家庭学習で補えるように指導する」と、さらなる定着に繋がると感じる。	
(2)これまでの学校の取組状況 ・少人数指導や、ITなどで個々の状況が把握できるように工夫して指導を行っている。 ・単元ごとに振り返りを行い、自己評価ができるようにしている。 ・具体的な学習方法を提示し、家庭学習の習慣を促している。	

今年度の目標	
①基礎基本の定着を図るために、学習習慣を身につける。 ②こまめな振り返りを行い、自己評価を基に、主体的に学ぶ力を身につける。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	○毎回の授業のねらいを明確にし、見直しをもって学習に臨めるようにする。 ○授業の最後に学習の振り返りの時間を設けて、学習の内容の再確認、自己の到達度を確認する。 ○生徒の振り返りをもとに、理解が十分ではなかった内容に繰り返し触れて、定着を図る。
下半期	○年間を通して、生徒同士が学び合いができるようなグループワークやペアワーク等の機会を多く設ける。 ○教員は、生徒の理解の手助けになるように、ICT機器を有効に活用し、教材研究を重ねる。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育	①「道徳の授業」を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を充実させます。 ②全生徒が「人権作文」を書くことを通じて、人権尊重の重要性・必要性について理解を深めるとともに、豊かな人権感覚を身に付けさせます。 ③題材によって、学年職員全員でローテーションしての授業を行い、道徳の授業力向上を目指します。
担当	学習指導部

豊かな心に関わる本校の状況	
(1)豊かな心に関わる児童生徒の実態 ①自己肯定感が低く、将来への夢や目標に不安を抱いている。 ②規範意識が低く、人々と積極的に関わろうとしない。 ③基本的な生活習慣が身につけていない生徒が多い。	
(2)これまでの学校の取組状況 ①校内で道徳授業を公開「道徳の時間」の授業づくりに取り組む ②「人権作文」に取り組む。人権を尊重する豊かな心を育てる。 ③地域行事等への参加を呼びかける。相手を思いやる心や社会に役立つ行動をする態度を育てる。	

今年度の目標	
①「道徳の時間」の充実 ②確かな人権感覚・意識の育成	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	○「人権作文」の実施 ○地域ボランティアへの参加呼びかけ ○朝のあいさつ活動実施 ○学校周辺ゴミ拾い活動実施
下半期	○校内道徳授業の公開 ○学校周辺ゴミ拾い活動実施 ○ユニセフ募金活動 ○校内ボランティア活動実施

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①保体の授業だけでなく、昼休み等にもスポーツに親しむ意識を高めます。 ②心身の健やかな成長のために、よりよい食生活を実現しようとして、ストレス対処のための適切な行動を選択する態度を育みます。 ③マスクや手洗い等、感染症予防を日常的に実践する意識を高めます。
担当	生活指導部

健やかな体に関わる本校の状況	
(1)健やかな体に関わる生徒の実態 市体力運動能力調査では、毎日朝食をとる生徒は80%程度である。え全国学習状況調査では、毎日のゲームやスマホを3時間以上利用している生徒が55%あり、神奈川県36%を大きく上回る。健康診断結果では、体格は男女ともに優れている。う歯は少ない一方、視力が低下している生徒が多い。市体力運動能力調査では、握力以外の項目で令和元年度の横浜市平均を下回っている。特に1年生については全体的に数値が低く、体力不足が懸念される。	
(2)これまでの学校の取組状況 休み時間や体育授業時に、複数の職員が指導に加わり、安全に楽しく運動に親しむことができるように努めている。 生徒が自分の視力低下や眼の疲労に気づけるように、廊下に視力検査表を設置している。	

今年度の目標	
①体育的活動における自治活動を充実させる。②生徒が主体的に感染予防行動をとり、自身の生活習慣の課題を認識し、改善しようとする態度を育成する。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	○体育の授業において試合や記録会の運営等を生徒が主体となって行えるようにする。 ○体育祭での係活動や応援等を充実させる。 ○保健委員会で、全校に向けて感染予防の意識づけのための活動をする。 ○長期休み後に生活習慣をふりかえり、自分の健康や成長と関連づけて考えさせる機会をつくる。
下半期	○球技大会を生徒が中心となり企画・運営を行うようにする。 ○保健体育の授業を通じて、運動への様々な関わり方を学べるようにする。